

## 問 西小学校の 教室不足について

西小学校は、市内で一番児童数が多く、721人が通うため、特別教室や図工室が普通教室に改修されるなど、教室不足が深刻である。学区内では建築中の戸建て住宅が目立ち、児童は今後更に増えると予測される。学習環境を整えるための対策を伺う。

## 答 通学区域見直しを含め 対応策を検討する

小学校の児童数増加については、校舎内を改修し対応する予定であるが、児童数に関する問題は西小学校だけではなく、市の将来の全体像を踏まえ、教育環境を第一に考え、公共施設再編計画と合わせ、通学区域の見直しなどを含めた対応策を検討するものである。



石原富子 議員  
(TSUNAGU)



加藤一生 議員  
(新風の会)

## 問 市が進めるエリア マネジメントについて

最初の実際の行動が「エリアマネジメントとは何か。」から始められるようでは、いつまでも実現されないように思うがいかがか。「成果がある。」と言うなら、次回3月定例会でその中身を伺う。また、今運行中の「路線バス」を具体的な課題とするのはどうか。

## 答 新白岡駅周辺地域で 取組を推進していく

市民の方の制度の理解が必要である。そのため、4年度は勉強会や組織づくりを行う。具体的な活動は5年度からとなるため、今年度の成果を問われた際には勉強会の成果に関する説明となる。交通の課題は、今後策定する地域公共交通計画で検討する。

## 総務常任委員会

### 鶴ヶ島市における地域公共交通について

10月24日(月) 鶴ヶ島市役所

地域公共交通においては、市民から様々な意見を伺うことがあり、先進市である鶴ヶ島市の「つるバス・つるワゴン」の現状について視察し説明を受けた。

鶴ヶ島市は、人口約7万人、面積17.65km<sup>2</sup>という規模の市であり、交通網を構築するにはある意味組み立てやすいと考える。

つるバス・つるワゴンの目的は、高齢者、障がい者、交通手段を持たない方など、いわゆる交通弱者の市内の移動手段を確保するほか、通勤や通学、買い物などにも利用できる市内における公共交通機関を確保するためである。

また、早朝や夜間の通勤等にも対応しており、高齢者や障がい者、妊婦や子育て中の市民など交通弱者にとっては大変ありがたいサービスであると感じられた。

つるバス・つるワゴンは、市民の移動手段として掛け替えのない事業であるが、現実問題として赤字を解消することは難しく、福祉



的な要素があるとはいえ、地域公共交通を維持することはどの地域も難しい状況であると感じられた。

白岡市の今後の街づくりにおいては、高齢者のアクセス問題や市外からの転入者の積極的な受け入れが大きなポイントであると考えられる。

さらに、費用対効果については、赤字補償額だけで判断するのではなく、医療費の削減や高齢者のフレイル対策につながる広い視野及び10年単位での結果や効果を考えた施策の展開を期待する。